

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 引野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

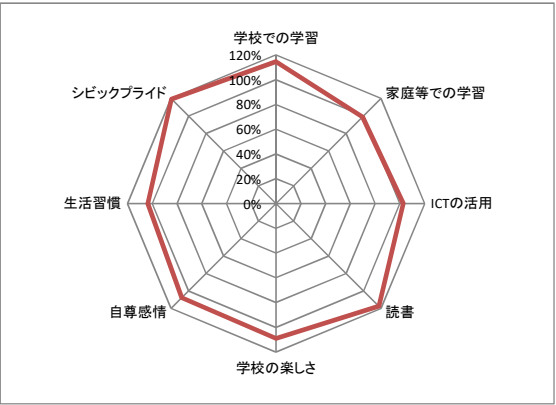
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	ほぼ全項目において本校の平均正答率は、市・県・全国平均を上回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」が他項目に比べて正答率が高く、問題形式としては、「選択式」「短答式」の正答率が平均を上回った。ただし、「記述式」の正答率が平均を下回っているため、書くことを苦手とする児童が多い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・文章の種類とその特徴について理解しているかどうかを問う問題 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題	
	努力が必要な問題	・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	市の平均は正答率で上回ったものの、県・全国と比較するとほとんどの項目で下回る結果となった。「変化と関係」の項目のみ、県・全国平均を上回った。「数と計算」項目が特に平均と乖離しており、乗法や除法の計算や、図を基に意味を考える問題を苦手とする児童が多く見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題 ・伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	・（2位数）÷（1位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題 ・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
「家庭等での学習」以外、全ての調査項目で全国平均（100%）を上回る結果となった。「家庭等での学習」項目の内訳については、「計画を立てて勉強をしているか」の項目は肯定的な回答が平均を上回ったものの、「土日を含め、普段から1日当たりどのくらいの時間勉強しているか」の質問に対し、1時間以上と答えた児童が全国平均を下回った。この結果を踏まえ、家庭学習の充実のため、学校での学習意欲を高める活動、及び、家庭学習の目的の浸透や意義についての理解を深める必要がある。
「学校の楽しさ」「自尊感情」「シビックプライド」の調査項目については、全ての質問で、肯定的な回答をした児童が全国平均を上回り、「友達関係に満足している」「自分にはよいところがある」の項目は100%に近い結果となった。特筆すべきは、「人の役に立つ人間になりたい」の項目で、肯定的回答が100%という結果を示した。生活習慣における調査項目、「朝食を毎日食べているか」の項目のみ全国平均を下回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科では、記述式の問題に苦手意識をもっている児童が多いため、書く活動を中心に指導を強化する。授業中に位置付けることはもちろん、朝自習や宿題などで、短文を書かせたり、興味ある内容の意見文を書かせたりして、少しでも文章を書くことへの興味を高める。
算数科では、一人一人課題としている内容にばらつきがあるため、ICT等を活用し、個別最適な学びの時間を作るようにする。また、全体では、統計的に「数と計算」項目が課題となっているため、小数や分数を中心とした複雑な計算問題を中心に復習していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習を促進させるため、学びたくなるような家庭学習の充実を図る。そのため、よい内容の自主学習ノートを紹介したり、題材や書き方のポイントをまとめたりして、一人一人が取り組みやすい学習体制を整備する。生活習慣における調査項目、「朝食を毎日食べているか」の項目のみ全国平均を下回る結果となっているため、栄養バランスや朝食をとるメリットなど、生活習慣改善についての学習を続けるとともに、保護者への啓発も同時に行っていく。